

擡東閣は日遊學生會の別動隊として、同會中主として各大學及び専門學校の校友生たる有志者を以つて組織せり。大正十年六月十六日、四宮六郎、渡世寛、徐相國、石川大寛、の四君發起人となり日比谷本樓に於て創立會を開催す。創立委員に高原正高、林昌洋、徐相國、萩原篤城、石川大寛、根井兵馬、武田源八、四宮六郎の八君を、總務委員に佐伯敬介、渡世寛、孫源庚、金來城、里玄忠、韓淵紳、横井太郎、田坂博圓、小林輝彦、森實作の十君を擧げ、宣言、綱領等を作成す。(閣則は當分役員制度を設けざるを以つて作成せず)

●十年度の既成事項
 同年七月四日、於明治大學講堂、第一回討論會開催。八月二日、於中央大學講堂、協議會開催。八月六日、全國地方遊說決行。(關西隊)田村真人、宮崎勝一、山根武之、小泉英一、以上四君。(西陣隊)平塚那夫、松永彌次郎、丹羽安實、石田隆二、徐相國、橋本成男、以上六君。(中武隊)松岡敏士、岡田七郎、谷本吉一、福島勝、白井大介、以上五君。(東北隊)萩原篤城、立石正英、木間多三男、諸富我一、和久井精三、木村進、横井太郎、以上七君。同年八月十一日滿鮮視察の爲め、武田源八、根井兵馬、四宮六郎の三君、釜山、京城、平城、奉天、天津、北京に旅行す。同年九月四日三君は滿鮮視察より歸朝し、杉浦重剛、頭山滿翁、寺尾亨翁、三浦梧樓閣下、大迫尚道閣下、岩崎勳先生、上杉權吉先生、中野天門先生の諸先生に會し、賛意を求め本閣の顧問、相談役として之より愈々公共的に活動する事となり。

●十一年度勢頭の既成事項
 本年一月一日、パレフレント(國家樹立之雜針)前編を六萬部發行し全國知名の士へ郵送せり。一月五日、本部に關員全部會合し新年宴會を催す。七日、天臺道士、杉浦重剛先生より招待を賜り、代表者二名出席せり。一月九日、飯野吉三郎先生より招待を賜り、代表者五名出席す。(東北地方遊說)萩原篤城、大島健三、才木勇一、四宮六郎の四君は十日上野驛を出發し十二日群馬縣高崎市高崎座にて政談演說會を開催し、それより十三日、新潟市に立出せるも大降雪の爲め列車不通となり、二日間新潟縣城崎附近に滞在す。十六日遂に北遊説を断念し一行は直ちに歸行せり。二月十七日(關西地方遊說)根井兵馬、石川大寛、白井大介、東田隆二、武田源八、四宮六郎の六君、東京驛を午前八時出發し同日靜岡縣濱松座にて午後七時開會し聽衆約一千五百人の大盛況裡に十一時閉會す。同日二十日、京都驛着、出迎人、京都同志社大學有志五氏京坂百人。二十一日有志の案内に従ひ一行は名所後藤等見物せり。二十三日午前十時、大坂梅田驛着、出迎人、大坂朝日新聞記者、大坂毎日新聞記者、東京日日新聞記者、大坂朝報記者、關西日報記者、時事新報記者の六氏神戸兵庫驛着、出迎人、神戸又新記者、國民新聞記者、時事新報記者、報知新聞記者の四氏、同日午後六時朝日座にて開會す、聽衆約一千三百人の盛況裡に十一時閉會す。是を以つて關西遊説を終了し三月二日一行は歸京せり。

●春季の既成事項
 三月十日、萩原篤城、渡世寛、大島健三の三君(福岡遊說)に出發す、同月十三日、博多市日の丸座にて開會し聽衆約一千二百人の大盛況にて散會し同月十七日歸京せり。四月十四日(靜岡縣下遊說)福島勝、白井大介、田村真人、松岡敏士、四宮六郎の五君、同日午後六時田方郡三島町大正座にて開會す、聽衆約千人。十一月一時散會す、四月十六日沼津町中村演藝館にて午後六時開會し、十時半閉會す、聽衆約六百人。十七日靜岡市、都館にて正午開會し、午後五時散會す、聽衆約一千人。何れも大盛況を以つて十九日、午前十一時無事歸京せり。

●本部の移轉
 兼て建築中ノ所四月二十六日愈々落成シタルニ付キ東京府北豐島郡三河島村十一番地ノ新築本部へ移轉ス。

顧問	頭山滿先生	常任幹事	四宮六郎
顧問	寺尾亨先生	幹事	石田隆二
顧問	杉浦重剛先生		石川大寛
相談役	岩崎勳先生		萩原篤城
顧問	中野天門先生		林昌洙
参議員	飯野吉三郎先生		里玄忠
顧問	畑勇吉先生		大島健二
顧問	大迫尚道閣下		韓紹紳
顧問	押川方義先生		
顧問	内田良平先生		

擡東閣本部

東京府下北豐島郡三河島村十一番地

殿机下

(イロハ順)
 武田源八、田村良人、孫源庚、松岡敏士、福島勝、櫻井兵馬、金來城、馮世寛